

静岡県試験研究 10 大トピックス (農林技術研究所 1)

タイトル	静岡茶の安全・安心を確保する放射性セシウム低減技術を茶農家に徹底	研究期間	平成 23 年度
研究所 所 属	農林技術研究所 茶業研究センター	補職名	生産環境科長
	生産環境科	研究者名	松本昌直
研 究 概 要	問合せ先 0548-27-2883		
	<p>〔背景・ねらい〕 福島第一原子力発電所事故による静岡茶に対する風評被害を払拭するため、新芽に含まれる放射性セシウムを経時的に調査すると共に、樹体内や土壌中での動態、放射性セシウムの低減化技術について解明し、安全・安心な静岡茶の生産に貢献する。</p> <p>〔成果の内容・特徴〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成 23 年の一番茶新芽で 111 ベクレル/kg (生鮮物) あった放射性セシウムは、二番茶新芽で 29 ベクレル/kg、三番茶新芽で 18 ベクレル/kg、秋冬番茶新芽で 12 ベクレル/kg となり約 10 分の 1 に減少した (図 1)。 平成 23 年の一番茶荒茶で、370 ベクレル/kg (生鮮物) あった放射性セシウムは、二番茶で 140 ベクレル/kg、三番茶で 66 ベクレル/kg、秋冬番茶で 38 ベクレル/kg となり、約 10 分の 1 に減少した (図 1)。 うね間土壌の放射性セシウムは、大部分が深さの浅いところに集積しているが、深さ 0 ~15 cm で 11 ベクレル/kg (自然乾燥土壌) であり、茶芽の濃度に比べて低い。 枝葉の刈り落とし処理により、新芽の放射性セシウム濃度が低下することを明らかにした。その程度は、浅刈り (茶樹表面から 5 cm 除去) で 18%、深刈り (茶樹表面から 10 cm 除去) で 44%、中切り (茶樹表面から 30 cm 除去) で 56% であった (図 2、図 3)。 <p>〔成果の活用・留意点〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成 24 年産一番茶新芽の放射性セシウム濃度は、センター内に設置したハウスでの早出し栽培における調査や各地域の調査において、飲用茶での国の基準値 10 ベクレル/kg に対して、検出限界未満 (検出限界 0.7~1.0 ベクレル/kg) であった。 成果の活用は、県庁関係各課及び農林事務所と連携をとりつつ実施し、静岡茶の安全・安心を確保していく。 		

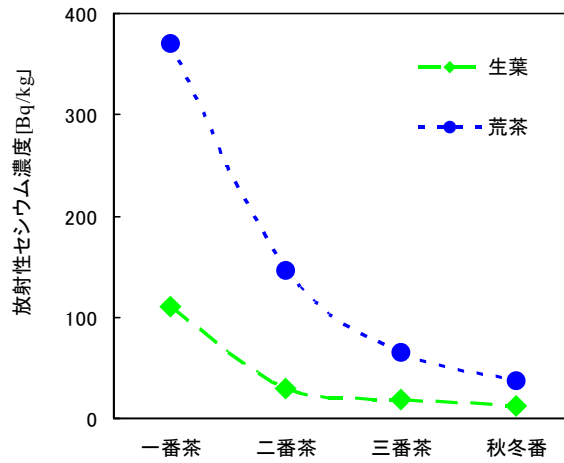


図1 茶期による放射性セシウムの推移

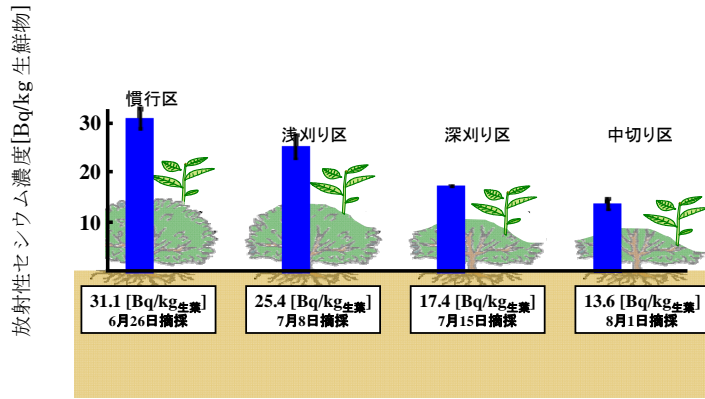


図2 枝葉の刈り落としによる放射性セシウムの低下



図3 枝葉の刈り落としを行った茶園

* 手前から中切り、深刈り、浅刈り